（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	にじいろ　城山台

公表日　2026　年　3　月　31　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の支援を通して児童の様子や課題を職員間で共有し、支援方法の見直しを行っている。児童の成長や変化に応じて活動内容を検討し、支援の質の向上につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を実施し、いただいた意見や評価結果を確認している。改善が必要な項目については課題を整理し、今後の支援内容や事業所運営の改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		保護者向け評価表を実施し、いただいた意見や評価結果を確認している。改善が必要な項目については課題を整理し、今後の支援内容や事業所運営の改善につなげている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		児童の発達特性や支援方法について、日常業務の中で情報共有や助言を行っているが、計画的な研修機会の確保については十分ではない。今後は、発達支援に関する専門的な知識や支援技術の向上を図るため、事業所内研修の実施や外部研修への参加機会を確保していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		児童の発達段階や特性を踏まえ、本人支援、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携の視点を取り入れた支援プログラムを作成している。児童一人ひとりの興味や関心を大切にしながら、必要な力を段階的に育てる支援を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者からの聞き取りや児童の活動場面での観察を通して、発達状況や得意なこと、苦手なことを把握している。本人の興味や意欲を尊重しながら、現在必要な支援を検討し、個別支援計画に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画に基づく支援目標や具体的な支援方法を職員間で共有している。また、日々の活動で見られた児童の変化についても情報交換を行い、一貫した支援につなげている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画に基づく支援目標や具体的な支援方法を職員間で共有している。また、日々の活動で見られた児童の変化についても情報交換を行い、一貫した支援につなげている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の活動場面での行動観察を重視し、児童の発達状況や特性を把握している。また、保護者からの聞き取りや関係機関からの情報も参考にし、多面的な視点から支援の必要性を検討している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインに基づき、健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の5領域を踏まえた支援を行っている。児童の発達段階に応じて、複数の領域を関連づけた活動を取り入れている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童の興味や発達状況、支援目標を踏まえ、職員間で活動内容を検討している。個々の児童に必要な経験や課題を考慮しながら、無理なく取り組める活動を組み立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節の制作活動、自然観察、運動遊び、生活体験、外出活動など、多様な活動を取り入れている。また、児童の興味や関心、発達段階に応じて内容や難易度を調整し、活動が固定化しないよう工夫している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の発達特性や支援目標に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせている。個別活動で身につけた力を集団の中でも発揮できるよう、段階的に活動への参加を促している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に利用児童の状況や当日の活動内容、職員の役割分担などを確認している。児童の体調や配慮事項についても情報を共有し、安全で円滑な支援につなげている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、児童の活動中の様子や支援方法について職員間で情報共有を行っている。活動への参加状況や新たに見られた成長、支援上の課題を確認し、次回の支援に生かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容や児童の様子を記録し、発達の変化や支援上の課題を継続的に把握している。活動結果だけでなく、取り組む過程や児童の反応にも着目し、今後の支援方法の検討に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを通して支援目標の達成状況や児童の発達状況を確認している。保護者の意向や日々の支援記録も踏まえ、必要に応じて個別支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援専門員や関係機関との情報共有を行い、児童の発達状況や支援上の課題について共通理解を図っている。児童の生活全体を見据え、関係機関と連携した支援につなげている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育所等訪問支援や関係機関との情報共有を通して、児童の生活場面における課題や支援方法について連携を図っている。必要に応じて保護者や関係機関と相談し、継続的な支援につなげている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育所等訪問支援を通して、園での集団生活や活動への参加状況を観察し、園の職員と支援方法について情報共有を行っている。事業所と園での支援に一貫性を持たせ、児童が安心して生活できるよう連携を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に向けて、児童の発達状況や必要な配慮について保護者と情報共有を行っている。必要に応じて学校や関係機関との連携を図り、児童が安心して新しい環境へ移行できるよう支援している。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童の支援に関する課題について、必要に応じて関係機関と情報共有を行い、専門的な視点を取り入れた支援につなげている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園活動や地域施設への外出など、事業所外での活動を取り入れている。地域の環境や人との関わりを経験する機会を大切にし、社会性や生活経験の広がりにつなげている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の支援記録や送迎時の情報共有を通して、児童の活動中の様子や発達の変化を保護者に伝えている。また、家庭での様子や保護者の意向も確認し、共通理解を持ちながら支援を進めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者からの相談に応じて、児童の発達特性や家庭での関わり方について助言を行っている。事業所での支援方法や児童の反応を共有し、家庭でも無理なく取り入れられる関わり方を一緒に検討している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や利用開始時に、運営規程や支援内容、利用者負担等について説明を行っている。また、利用に関する変更や確認事項については、必要に応じて保護者へ個別に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画の作成にあたり、児童本人の興味や意欲、保護者の希望や家庭での状況を確認している。本人の意思を尊重しながら、発達段階に応じて必要な支援を検討し、計画に反映している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画の内容や支援目標について保護者に説明し、意向を確認したうえで同意を得ている。支援内容について疑問や希望がある場合には、必要に応じて説明や調整を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの子育てに関する悩みや相談に対して、児童の発達特性や日々の支援状況を踏まえた助言を行っている。また、必要に応じて関係機関との連携を図り、家庭と事業所が協力して支援できるよう努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		現在、保護者会や保護者同士の交流機会を十分に設けられていない。今後は、保護者の希望や参加しやすい方法を確認しながら、行事や交流会等を通して保護者同士が情報交換できる機会の設定を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談や申し入れについて、内容を丁寧に確認し、必要に応じて職員間で情報共有を行っている。児童や保護者の状況に配慮しながら、適切かつ迅速な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINE等を活用し、活動予定や行事案内、持ち物、利用に関する連絡事項を保護者へ伝えている。また、日々の支援記録を通して児童の活動内容や様子を具体的に共有している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		児童や保護者の個人情報について、取扱いに十分配慮している。支援記録や関係書類の管理に注意するとともに、関係機関との情報共有についても必要な範囲で適切に行うよう努めている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童の発達段階や言語理解の状況に応じて、短く分かりやすい言葉での説明や、視覚的な手がかり、身振りなどを取り入れている。また、保護者に対しても、専門的な内容をできるだけ分かりやすく伝えるよう心がけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止や緊急時対応、感染症対策等に関するマニュアルを整備し、安全な支援体制の確保に努めている。また、避難訓練を実施し、非常時に適切な対応ができるよう取り組んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画に基づき、災害等の非常時における対応方法や職員の役割について確認し、必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時や必要に応じて、児童の健康状態、服薬状況、既往歴等について保護者から情報を確認している。個別に配慮が必要な事項については職員間で共有し、安全に支援を行えるよう努めている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーの有無や必要な配慮について、保護者から情報を確認している。アレルギーのある児童については、医師の指示や保護者からの情報を踏まえ、誤食防止など安全面に配慮している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、日常的な安全確認や事故防止に努めている。児童の発達特性や活動内容に応じて危険が生じやすい場面を把握し、職員間で必要な配慮事項を共有している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		児童の安全確保に関する取組について、必要に応じて保護者へ情報提供を行っている。今後も避難訓練や安全対策の実施状況を分かりやすく伝え、保護者が安心して利用できるよう努めていく。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		支援中に危険が生じた場面や事故につながる可能性があった事例について、職員間で情報共有を行っている。児童の行動特性や環境面を踏まえて原因を検討し、再発防止に向けた支援方法や環境調整につなげている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		児童の人格や意思を尊重した支援を基本とし、不適切な関わりを防止するため、職員間で支援方法や児童への接し方について確認している。また、虐待防止に関する研修等を通して、職員の理解を深めるよう努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		児童の意思や尊厳を尊重し、身体拘束を行わない支援を基本としている。児童の行動の背景や発達特性を理解し、環境調整や関わり方の工夫によって、安全を確保できるよう努めている。	